

登録コード	EKG01900	開講年度	2026			
授業科目	知的障害児の理解と支援				担当教員	楠見 友輔 他
英文授業名	Understanding and support for children with intellectual disabilities				副担当	戸谷 健史
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・4時限	履修学年
講義室	教育E106		授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー 該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】
	26EAカリ，25EAカリ，24EAカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	知的障害教育の歴史、理念、国内外の制度や実践についての発展的な知識を持ち、活用することができる。
	子どもの多様なニーズへの対応力				⇔	児童生徒の状況（知的障害の特性、学習上の問題点等）について理解することができる。
(2)授業の概要	本授業は、知的障害教育に関する歴史、理論、心理・生理・病理に関する最新の文献を講読し、議論をすることによって進める。					
(3)授業計画	第1回 イントロダクション：知的障害教育の概要 第2回 知的障害の心理 第3回 知的障害の生理・病理 第4回 知的障害のある子どもの学習 第5回 知的障害のある子どもの運動機能の発達 第6回 知的障害のある子どもの言語・コミュニケーションの発達 第7回 知的障害教育の歴史（戦後～養護学校義務制成立まで） 第8回 知的障害教育の歴史（養護学校義務制成立～現在） 第9回 生活主義の伝統について 第10回 知的障害教育の場（発達保障・共生共有論争と現在のインクルーシブ教育を巡る論争） 第11回 知的障害教育の学習論（反個人主義） 第12回 国外の状況について 第13回 知的障害のある子どもの教科教育 第14回 インクルーシブ教育					
(4)成績評価の方法	毎回のレジュメの作成（25％）とレポート試験（75％）による					
(5)履修上の注意						
(6)質問、相談への対応および連絡先	履修や授業内容に関する質問や相談は、担当回の教員にメールで問い合わせてください。					
(7)成績評価の基準	・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。 ・レポート試験は以下の観点から評価する。 1)字数条件を満たしており、教育的に適切な内容で整理されている。 2)講義で学んだ内容が踏まえて書かれている。 3)整理の仕方にオリジナリティがあり、自分の考えが根拠立てて書かれている。					
(8)事前事後学習の内容について	講義前に資料に目を通してくることを事前学習とする。 各回に学んだ内容を次回までに復習することを事後学習とする。 授業と事前・事後学習を含めて90時間の学習時間を目安とする。					
【教科書】	勝二博亮（編著）知的障害児の心理・生理・病理：エビデンスに基づく特別支援教育のために．北大路書房 楠見友輔（著）子どもの学習を問い直す：社会文化的アプローチによる知的障害特別支援学校の授業研究．東京大学出版会 森博俊（著）知的障碍教育序説．群青社 小出進（著）知的障害教育の本質．ジアース教育新社 堤英俊（著）知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたち：インクルーシブ社会への教育学．東京大学出版会					
【参考書】	使用しない					